

平成 27 年度 東京外国語大学オープンアカデミー
東京外国語大学語学研究所 企画
『言葉とその周辺をきわめる -4-』
2015 年 10 月 13 日 (火) 第 2 回
「ふしぎな、ふしぎなアラビア語」
東京外国語大学大学院特別研究員
長渡 陽一

「言葉とその周辺をきわめる -4-」第 2 回、アラビア語を担当する長渡です。
まずアラビア語はどんな言語で、どんなところで話されているかというあたりからお話いたします。

1. アラビア語が話される地域

みなさんは、アラビア語がどのあたりで話されているか、漠然とはご存知かと思いますが、地図で確認してみましょう。



アラビア語の故地はサウジアラビアです。ここの砂漠の遊牧民がもともとの「アラブ」で、彼らが話していた言葉が、今のアラビア語の出発点です。また、半島の西、紅海に近い方に位置する都市メッカのあたりも、イスラム教の出現の

頃にはアラビア語が話されていました。これらのアラビア語が、イスラム軍と一緒に、西はアフリカ大陸のモーリタニアまで、東は中央アジアのウズベキスタンやアフガニスタンまで到達したのです。アラビア半島の南端イエメン、オマーンでは、イスラム征服より以前は、アラビア語とは別の、けれども同じセム語派の南アラビア諸語が話され、対岸のアフリカと深いつながりがありました。南アラビア文字による数々の碑文も発掘されていて、またソコトラ島のソコトラ語や、いくつかの谷あいでも南アラビア諸語が話されています。

ヨルダンやシリアは、アラビア砂漠がここまで広がってきていて、アラブ遊牧民との接触もあり、イスラム軍がかなり早い時期に征服しました。征服以前は主にアラム語が話されていた地域です。アラム語は、シリア内戦まではマールーラ村などいくつかの村で細々と話されていました。地中海岸のイスラエルは大戦後に建国され、ヘブライ語を第一公用語にしました。アラブ系住民はアラビア語も話しますが、国民の多くはヘブライ語を話します。同じ地域のパレスチナ自治区はアラビア語です。最近、話題になっている「イスラム国」(IS)が勢力を張っているのはシリアやイラクにまたがっていますが、ここもアラビア語が主に話されている地域です。ただし、支配地域にはクルド人の多い地域も含まれており、そこでは住民はクルド語を話しています。クルド語は、系統的にはアラビア語とは関係なく、ペルシャ語と同じ系統です。

イラクもアラブの国です。アラビア語が最有力言語ですが、イラク国内のクルディスタンにはクルド人が多く暮らしており、またイラン人、アルメニア人なども混ざっています。ティグリス川の上流、トルコに入ると、トルコ語やクルド語が優勢なところですが、いくつかの村で合わせて十万人ほどのアラビア語話者がいます。ただし彼らはトルコ語やクルド語も話します。

中央アジアは、イスラム軍が初期に一時征服し、まもなく撤退しましたが、現在もウズベキスタンやアフガニスタンの千人から数千人くらいの小さないくつかの村でアラビア語が話されています。ソ連時代にソ連の研究者 (Dereli や Винников など) が村に入って調査し記録しました。これらの村のアラビア語は、日本語と同じ語順になっている珍しいアラビア語として有名です。ほかの地域のアラビア語は、主語→動詞→目的語の語順ですが、ここでは周りで話されているタジク語 (ペルシャ語の系統) やウズベク語 (トルコ語の系統) の語順の影響と思われるのですが、次のように動詞が文の最後に来ています。

ある 男 牛を だった 世話し ている
fat ādami baqarīn kom-misūq-nāyim. ある男が牛を世話していた。
 ファト アーダミ バカリーン コム ミスーク ナーイム

(『アラビア語の世界』 p.432 (Fischer 1961 *Die Sprache der arabischen Sprachinsel in Uzbekistan* より))

イランの有力言語はペルシャ語です。ペルシャ語はインド・ヨーロッパ語族の系統ですから、アフロ・アジア語族セム語派のアラビア語とは系統関係がありませんが、イスラムに征服された後、さまざまな著作がアラビア語でなされ、イスラム教の受容によって多くのアラビア語単語が入っていきました。さらに表記にもアラビア文字を採用しています。イランの西の端でイラクに接するフーゼスタン州ではアラビア語も話されています。

アフリカ大陸に目を移すと、エジプトはアラブで最大の、そしてアフリカでも最大の国ですが、ここでは、古代エジプト時代にはヒエログリフで書かれた古代エジプト語、つづいてその末裔であるコプト語が話されていました。コプト語は、ギリシャ文字を改良した文字を使い、聖書の翻訳など、キリスト教文書がたくさん残っています。エジプトも7世紀のイスラム征服以降、徐々にアラビア語が話されるようになりました。

エジプトより西の、リビア、チュニジア、アルジェリア、モロッコ、そしてモーリタニアまではイスラム軍、その後11世紀以降はアラブ遊牧民の大きな部族がアラビア半島から移住してアラブ化されていきました。この地域は、アラビア語で「日の沈む所」という意味の「マグレブ」(مغرب) 地方と呼ばれています。マグレブ地方のアラビア語は、エジプト以東の「マシュレク」(مشرق 日が昇る所) のアラビア語とは単語や文法の面で違いがあります。文法では、動詞の現在形で主語が「私」のときの語頭が、マシュレク地方では「ア」ですが、マグレブ地方では「ヌ」です。単語では次の「家」や「魚」をはじめ、別の単語が使われる例が多いです。ベイト (بيت) はマシュレク地方では「家」ですが、マグレブ地方ではビートと発音して「部屋」の意味です。フート (حوت) はマグレブ地方では「魚」ですが、マシュレク地方では「くじら」のことです。ちなみにフートはもとは「大きな魚」のことで星座の「うお座」もフートと言います。

	「飲む」	「家」	「魚」
エジプト (マシュレク地方)	أشرب アシュラブ	بيت バイト	سمك サマク
モロッコ (マグレブ地方)	نشرب ヌシュロブ	دار ダール	حوت フート

アラビア語の地域はかなり広いですが、北アフリカのサハラ砂漠やサウジなど、人が暮らさない広大な砂漠があるので、人口で見ると概算で3億人くらいです。ただしこの数は、各国の人口を合計した数なので、例えば、モロッコでは人口の約半分を占めるベルベル人は日常ではアラビア語ではなく、ベルベル語で話しますから、もう少し少ないかも知れません。とはいえベルベル人も小学校でアラビア語を学ぶので、アラビア語話者と言えるでしょう。また1970年代のレバノン内戦のころ、レバノンからアメリカ、ブラジルなどに移民があり、最近ではシリア国内の戦争でトルコやヨーロッパにたくさんのシリア人が避難しています。約3億人というのは、これも含めたアラビア語話者数です。

もう1つアラビア語の国を紹介しておきます。地中海に浮かぶマルタ共和国です。ここはヨーロッパ人たちの夏のリゾート地、また英語学習の留学先として有名ですが、住民たちはアラビア語を話しています。マルタ人たちは「アラビア語」とは呼ばずに「マルタ語」と呼びますが、マルタの発音の特徴をつかめばアラビア語でかなり通じるのです。ただし、文語体アラビア語ではなく、会話体アラビア語です。では、なぜ「マルタ語」としてアラビア語から区別するかというと、宗教がキリスト教カトリックだからです。十字軍に参加したマルタ騎士団は有名ですね。そのためイタリアやシチリアとの関係が強く、イタリアに支配されていた時期もあるので、基礎単語はアラビア語ですが、新しい科学技術の単語や社会制度の単語など近代語彙はイタリア語やシチリア語、英語からたくさん借用しています。文字はアラビア文字ではなく、ローマ字を採用しています。ローマ字で書くアラビア語というわけです。アラビア語を勉強したいけれどもアラビア文字が難しそうだなと思ったら、マルタ語から入ってみてください。

2. 子音だけで読めてしまうふしぎ

アラビア語の魅力のひとつは、見た目のエキゾチックなアラビア文字です。実はその美しい魅力の裏には、システムのふしぎも隠れています。アラビア文字は子音しか書かないのに、みんながそれを読めているというふしぎです。

このふしぎを実感して体験できるように、アラビア文字を“解説”して少し覚えてみましょう。資料「アラビア文字の一覧」を参照してください。表には文字1番から31番までありますが、31番は23番「L」と1番「A」との合字なので、アラビア文字は30個です。ひらがな50個と比べれば少ないですね。それぞれの文字に「基本形」と「終りの形」があります。この呼び方は私独自のもの

で、多くの教材ではこの「基本形」を「語頭形」、「終わりの形」を「独立形」などと呼んでいます。先に「基本形」(語頭形)から覚えるほうが、早く、正しく読み書きできるようになります。というのは、単語は「基本形」で綴っていき、単語の最後だけ「終わりの形」で締めくくるからです。基本形の左に伸びた線に次の文字をくっつけて書くわけですが、いくつか、つなげない文字があります。1番の文字「A」を見ると、縦棒の文字の左下に「ا」のように☆印をつけてあります。この☆印は8~11番の文字にもつけてありますが、そこで一旦筆を離して、改めて次の文字を書き始めることを示すためにつけました。

(1) 実際に読んでみましょう

では資料「アラビア文字を解読しましょう」を見てください。単語リストの右端のものから解読していきましょう。

最初は【الجبر】です。アラビア文字は右から読みます。縦棒が2本ありますが、最初の縦棒 | は左へつながっていないので A で、次の | は左へつながっているので L、この2つで定冠詞 | (AL) です。続いて ج (J)、 ب (B)、 ر (R) をつづけると ALJBR となり、「アルジェブラ」(代数学)と読めそうですね。アラビア語では単語の最後の文字には母音をつけないので「ラ」ではなく「ル」と読み、「アルジャブル」です。

次の【الطائر】にも定冠詞 | (AL) があり、続いて ط (T)、 ا (A)、 ي (Y)、 ر (R) です。ALTAYR を続けて読むと、鷲座の星の名、「アルタイル」と読めそうです。アラビア文字を読むときは、文字1つにカナ1つをあてることがポイントなので、| (A) にも1文字「ア」ないし「ー」をあて、アラビア語では「アルターイル」となります。「飛んでいる」という意味で、「飛んでいる鷲」の「鷲」が省略されたものです。反対の「落ちている」が「ワーケア」(واقع)で、これが訛って「ヴェガ」(おりひめ星)になりました。

【الكحول】は、定冠詞 | (AL) に ك (K)、 ح (H)、 و (W) が続き、最後に終わりの形の | (L) があって、ALKHWL です。「アルコール」のことですが、アラビア語では H が入って「アルコハウル」となります。古代エジプトの壁画にも描かれている、目の周りに塗る黒い「コホル」が語源です。

【اسلام】は、 ا (A)、 س (S)、 ل (LA)、 م (M) で ASLAM となり、「イスラーム」と読み、イスラム教のことです。単語の最初では、アもイもウも | (A) で書きます。لا は | (L) と | (A) の合字です。

【**الله**】は定冠詞 **ال** (AL) に **ل** (L)、**ه** (Hの終わりの形) が続いて、ALLH となります。これが唯一神の「アッラー」です。預言者ムハンマドがメッカのカアバ神殿の神々の像を壊す前は、いろいろな神があったのですが、ムハンマドが、神は一つだけであるとして「イラーハ」(神 **اله** ALH) に定冠詞をつけて「アッラー」(**الله** ALLH) となりました。ラーの伸ばす「ー」に **ل** (A) があてられていませんが、これは、伸ばす音を表記していなかった頃の綴りをそのまま残しているためです。ところでイスラム教徒だけでなく、キリスト教徒もユダヤ教徒も「神」は「アッラー」と呼んでいます。

【**بن لادن**】は、**ب** (B)、**ن** (Nの終わりの形)、**لا** (LA)、**د** (D)、**ن** (N) で BN LADN となり、人名の「ビンラーデン」です。**بن** (BN ビン) は「息子」の意味で、**ابن** (ABN イブン) とも言います。名前に使われるときは「～家の」という意味になります。13世紀のモロッコの大旅行家 **ابن بطوطة** (ABN BṬWṬA イブン・バットウータ)、医学者 **ابن سينا** (ABN SYNA イブン・スィーナ)、歴史学者 **ابن خلدون** (ABN KLDWN イブン・ハルドウーン) にもイブンが入っています。英語の名前「ベンジャミン」の「ベン」はヘブライ語由来ですが、アラビア語の「ビン」、「イブン」と同じ語源です。

【**صحراء**】は、**ص** (S)、**ح** (H)、**ر** (R)、**ا** (A) で、最後の「**ء**」は「ツ」を表す符号で「サハラツ」と読みます。「サハラ」、つまり「砂漠」の意味です。「サハラ砂漠」は「砂漠砂漠」ということになります。

【**عربي**】は、**ع** (E)、**ر** (R)、**ب** (B)、**ي** (Y) で「アラビィ」と読み、「アラブ人」あるいは「アラビア語」の意味です。**ع** (E) は、咽頭を狭めて発音する子音(発音記号は [ʕ]) で、文字名は「アイン」(目) です。この発音は、アラビア語以外に古典ヘブライ語にもあります。

【**قرآن**】は、**ق** (Q)、**ر** (R)、**ا** (A)、**ن** (N) で「コルアーン」と読み、イスラム教聖典のコーランです。**ق** (Q) はKよりも奥から発音するので、「コ」に近い音になります。**آ** は、**ا** (A) を **Ā** (アー) のように伸ばす印です。

【**محمد**】は、**م** (M)、**ح** (H)、**م** (M)、**د** (D) で2つめのMはMMのようにダブらせて読みます。このようにダブらせるときも文字は1つしか書きません。MHMMMDで「ムハンマド」となります。イスラム教の預言者の名でもあり、現在、アラブ圏の男性の名で最も多い名です。

【**مكة**】は、**م** (M)、**ك** (K)、**ة** (語末のA) で、ここでもKをダブらせてMKKAとなり、「メッカ」と読みます。サウジアラビアにあるイスラム教の聖地の名前

です。ة は、語末の子音に母音 a を加える文字で、主に女性名詞を表します。

さて、資料の最下段に4つだけ、現地事情に関わる単語を載せておきました。

【واحة】(WAHA)「ワーハ」は「オアシス」です。これは古代エジプト語の「ワハート」(𓏏 *wḥst*) から来ています。これがギリシャ語へ伝わって *w* (ワ) が *óα* (オア) に、*h* (ハ) が *σ* (セ) に置き換わって「オアセイ」(*óαση*) となり、これがさらに英語まで伝えられて「オアシス」となりました。

【جمل】(JML)「ジャマル」は「ラクダ」です。英語の *camel* (キャメル) は、おなじセム語派のヘブライ語の「ガマル」(*גמל*) に由来すると思いますが、アラビア語も昔の発音は「ガマル」で、古典アラビア語の時代には「ギヤマル」、現代では「ジャマル」となりました。エジプトでは今も「ガマル」です。

【علاء الدين】は人名の「アラジン」です。ع (E)、لا (LA) で、「ء」は「ッ」ですがここでは、次に定冠詞があるので母音「エ」を入れて「アラーエ」となります。ちなみにこれは「神」の「アッラー」(الله ALLH) とは関係なく、「いと高き」という単語です。次は定冠詞(ال AL) ですが、定冠詞は前に単語があるときは l (A) は読みません。定冠詞の ل (L) は、つけた単語の最初がサ行やタ行のとき「ッ」になるので、「アラーエッディーン」となります。دين (DYN)「ディーン」は宗教、ここでは「神」の意味で、「いと高き神」です。

【قهوة】は ق (Q)、ه (H)、و (W)、ة (語末の A) で「カホワ」と読み、「コーヒー」のことです。コーヒーはアラビア語 قهوة (QHWA カホワ) からトルコ語 *kahve* (カハヴェ) を経てヨーロッパ語のカフェ (*café* フランス語)、コフィ (*koffie* オランダ語) などになりました。アラビアへはおそらくエチオピアから来ていますので、もともとはエチオピア系の単語のはずです。現在のエチオピアに「ケッフア」という地名がありますが、これがアラビア語に入ってきて「カホワ」になったのではないかと思います。またイエメンにはモハという港町があり、これが「モカ」の語源と考えられます。

(2) 子音の“意味”というふしぎ

さて、ここまでアラビア文字を読んできましたが、子音しか書いてないので、母音はそれぞれのケースで補って読んでいました。الجبر (ALJBR) は「アルジェブラ」なのか「エルジョビレ」なのか「アラジュバル」なのか、単語を知らなければ特定できません。アラビア文字だけを一生懸命勉強してもだめで、とにかく単語を知らなければ読めないのです。ちなみに日本語もそうです。「生」は、「い

(きる)「なま」「せい」「しょう」など、単語によって読み分けます。日本語は、さらにこのような文字を 2000 個以上使っているのですから、もっと大変です。

単語を知らなければ読めないということは共通しているけれども、アラビア語が日本語と決定的に違うのは、子音が同じならば、ある程度の“意味”範囲が特定できるということです。たとえば同じ K-S-R の子音の単語に、日本語では意味的にさまざまな単語がありますが、アラビア語では、次のように、どれも「壊す」という“意味”範囲にあるものばかりです。このような子音のセットは、「子音語根」と呼ばれています。たいていは3つの子音がセットとなって語根が成り立っています。同様の語根システムは、ヘブライ語、アラム語などにもあり、セム語派の特徴と言えます。

子音が K-S-R の単語

日本語	KaSuRu カスル (掠る)、KiSeRu キセル (着せる)、KuSuRi クスリ (薬)、KuSaRu クサル (腐る)、KuSaRi クサリ (鎖)、KoSuRu コスル (擦る)
アラビア語	KaSaR カサル(كسر 壊す)、KaSSaR カッサル(كسر 粉碎する)、maKSūR マクスール (مكسور 壊された)、inKaSaR インカサル (انكسر 壊れる)

アラビア語の子音語根の例を、もう2つ見てみましょう。

K-T-B 語根 كـتـب (「書」に関連) :

KaTaB カタブ (書く كـتـب)、KiTāB キターブ (本 كـتـاب)、maKTaB マクタブ (机 مـكـتـب)、KāTeB カーテブ (作家 كـاتـب) など

D-R-S 語根 دـرـس (「学」に関連) :

DaRaS ダラス (学ぶ دـرـس)、maDRaSa マドラサ (学校 مـدرـسة)、moDaRReS モダッレス (教師 مـدرـس)、DiRāSa ディラーサ (研究 دـراـسة) など

このようにアラビア語は、子音のセットが“意味”範囲を持っているのです。

(3) 知らない単語も子音だけで読める「型」のふしぎ

ある単語の語根を割り出して、それによって“意味”範囲が分かったとしても、実際には母音の組み合わせが無数にあるはずで、やはりたくさんの単語を一つ一

つ知っておかない限り絶対に読めないかということ、あるふしぎのおかげで、知らない単語でもある程度、読めてしまいます。それが単語の「型」のふしぎです。単語には決まった「型」があるのです。ただし、この「型」もけっこうたくさんありますから、慣れるまでにはそれなりに時間がかかります。

ではこの「型」を実感してみましょう。

【名詞】名詞の「型」の一例として職業名の型をみてみましょう。それぞれ読んでみると全部同じリズム「moOaOOeO」になっているのがわかると思います。このリズムが「～する者」（能動分詞）の型です。左の単語の子音がこの型にはめ込まれます。アラビア文字で ○○○○م (M○○○○) とあれば、この型で読まれることが予想できるのです。

ハンダサ HaNDaSa 「工学」 هندسة	→	モハンデス moHaNDeS 「技術する者＝技術者」 مهندس
タルジャマ TaRJaMa 「翻訳」 ترجمة	→	モタルジェム moTaRJeM 「翻訳する者＝翻訳者」 مترجم
ダッラス DaRRaS 「教える」 درس	→	モダッレス moDaRReS 「教える者＝教師」 مدرس

※RRのように同じ子音が2つのとき、アラビア文字は1つだけ書きます。

もう1つ、機械の名詞の型を見てみましょう。機械の名詞の多くは、オスマントルコ帝国の末期の頃に、“アラブの覚醒”という思潮にあいまって知識人たちが作り出してきた新しい、近代語彙です。これには、OaOOāOaの型が使われました。真ん中のOOには子音語根の真ん中の子音がダブって入りますが、アラビア文字は1回しか書きません。

サイル SaYR 「進み」 سير	→	サイヤーラ SaYYāRa 「自動車」（進む機械） سيارة
サルジ OaLJ 「氷」 ثلج (Θ=[θ])	→	サッラージャ OaLLāJa 「冷凍庫、冷蔵庫」（氷の機械） تلاجة
タイル ṬaYR 「鳥」 طير	→	タイヤーラ ṬaYYāRa 「飛行機」（飛ぶ機械） طائرة
ソホン SuḲN 「熱い」 سخن (Ḳ=[χ])	→	サッハーナ SaḲḲāNa 「電熱器」（熱くする機械） سخانة
サメア SaMiE 「聞く」 سمع (E=[ʕ])	→	サンマーア SaMMāEa 「受話器」（聞く機械） سماعة

「サッハーナ」（سخانة 電熱器）は、ホテルの水場や家庭で、専用の水タンクにスイッチがあって、電気で熱くして蛇口からお湯が出るようにしているものです。安いホテルではシャワーを浴びるためには、スイッチを入れて半日くらい見てください。朝出かける前にスイッチを入れておかないと、帰ってきてから熱いお湯

が出ないということになります。

【形容詞】形容詞のかなり多くが、次の例のように OaOīO という型をしています。ですからつづりで「O_يOO」(OOYO) となっていると、形容詞として OaOīO と読むことが予想できます。

كبير	KaBīR	カビール	「大きい」
صغير	ṢaĠiR	サギール	「小さい」
قريب	QaRīB	カリーブ	「近い」
طويل	ṬaWīL	タウィール	「長い」
قصير	QaṢīR	カスイール	「短い」

【動詞】名詞や形容詞は「型」がかなりたくさんありますが、動詞の「型」は次の9個です。

OaOaO型	KaTaB	كتب	カタブ	「書く」
OaOOaO型	DaRRaS	درس	ダッラス	「教える」
OāOaO型	SāFaR	سافر	サーファル	「旅行する」
aOOaO型	aĠLaQ	اغلق	アグラク	「閉める」
taOaOOaO型	taRaKKaZ	تركز	タラッカズ	「集中する」
taOāOaO型	taBāDaL	تبادل	タバーダル	「交換する」
inOaOaO型	inṬaLaQ	انطلق	インタラク	「発車する」
iOtaOaO型	iBtaSaM	ابتسم	イブタサム	「微笑む」
istaOOaO型	ista&MaL	استعمل	イスタアマル	「使う」

アラビア語にもたくさんの動詞がありますが、そのどれをとってみても必ずこれらの型のどれかにあてはまるのです。それぞれが過去形、現在形、分詞形、動名詞形で少しずつ型が変わりますが、いずれにしても型の数は限られているのです。

以上のように、アラビア語では、知らない単語であっても、それが職業名か、機械か、形容詞か、動詞かなどが予測できれば、「型」を思い起こすことで正確に母音を入れて読めるのです。

(4)「全韻」の楽しみ

アラビア語は詩を作るとき、この「型」を最大限に利用すれば、頭韻や脚韻を超えて単語全体の韻をそろえる、名付けて「全韻」が可能です。「全韻」を楽しむために、ザマハシャリー著、『文法詳解』序文をご紹介します。太字の同じ下線の単語どうしが「全韻」を踏んでいます。

ザマハシャリー著『文法詳解』の序文（『アラビア語の世界』p.212 参照）

神は 賛美されん につき
Allāh 'aḥmad 'alā (このことにつき、神は賛美されん)
 アッラー アハマド アラー

こと 我をして～とせる の一人 学者ら アラビア語の
'an ja'alānī min 'ulamā' l-'arabiyya (我をして、アラビア語学者の一人となし)
 アン ジャアラニー ミン ウラマー ル・アラビーヤ

また 我に天性を与えし を 守護 アラブ族 と 部族連帯
wa-jabalanī 'alā l-ḡaḍab li-l-'Arab wa-l-'asabiyya
 ワ ジャバラニー アラ ル・ガダブ リル・アラブ ワ ル・アサビーヤ
 (我にアラブと部族連帯を守る天性を与えし)

また 我を防ぎし
wa-'abālī (また我を守り給いし)
 ワ アバーリー

こと 我孤立する より 内 彼らの仲間の そして 飛び出す
'an 'anfarid 'an ṣamīm 'anṣārihim wa-'amtāz
 アン アンファリド アン サミーム アンサーリヒム ワ アムターズ
 (飛び出てその仲間らの内より孤立せるより)

また 我集う へ 連中 シュウービーヤ運動 そして 離れる
wa-'andawiy 'ilā laff ṣ-ṣu'ūbiyya wa-'anhāz
 ワ アンダウィー イラー ラフィーフ ッシュウービーヤ ワ アンハーズ
 (離れてイラン民族運動の連中へ集うより)

そして 我を守りし より 彼らの宗派 ところの ざりし 手にされ 彼らの上に 以外
wa-'aṣamanī min maḡhabihim allaḡī lam yujdi 'alayhim 'illā
 ワ アサマニー ミン マズハビヒム アッラズイー ラム ユジディ アライヒム イッラー
 (かのほかに、彼らの上に何ももたらさざる彼らの宗派より我を守り給いし)

攻撃 による 舌 呪う者らの
r-raṣq bi-'alsina l-lā'inīna (呪う者らの舌による攻撃と)
 ッ・ラシク ビ アルスィナ ッラーイニーナ

と 中傷 による 歯 けなす者らの
wa-l-maṣq bi-'asinna t-tā'inīna (けなす者らの歯による中傷との)
 ワ ル・マシク ビ アスィンナ ッターイニーナ

アラビア語でもここまでたくさんの単語の「全韻」をそろえるのは大変ですが、ほかの言語よりもそろえやすいことがお分かりがと思います。

(5) 子音だけ表記の効能

アラビア語には以上のふしぎがあるため、いちいち母音を書いてあると、うるさく感じます。それどころか母音を書いてしまうと、かえって問題が起こることがあります。それは、母音が実は国によってだいぶ異なっているからです。たとえば、「本」や「あなた」という単語は、地域によって次のように母音が異なっています。

	「本」		「あなた」	
エジプト	KeTāB	ケターブ	eNTa	エンタ
シリア	KTāB	クターブ	əNTe	インテ
モロッコ	KTəB	クタブ	NTa	ンタ
文語体	KiTāB	キターブ	aNTa	アンタ
マルタ	KTīB	クティーブ	iNT	イント

母音を書くとする、この表にあるとおりに書くことになり、同じ単語のように見えなくなってしまいます。あるいは、どれかの母音に統一しようとする、それ以外の国の人々は“正しい”母音を一つ一つ覚えなくてはならなくなるのです。マルタ語はローマ字で書かれ、母音も書くので、他のアラビア語の方言しか知らない場合、一度、口に出して発音してみないと、何の単語かピンと来ないことがあります。ところが、子音および長母音の部分だけで、**كتاب** (KTAB「本」)、**انت** (ANT「あなた」) と書いておけば、表のように自分の訛りで読めるわけです。

私がアラビア語の授業で最初にする助言は、「母音に鈍感になろう」ということです。つまり母音をあまり気にしないのがポイントです。最終的にどれかの国のアラビア語をきちんと学ぶには、その国の母音も身につけなければなりません。アラブ圏のさまざまなアラビア語に慣れていくためには、入門段階のうちから、ケターブ、キターブ、クターブのどれであってもあまり気にせず、同じ単語と“感じる”ようになる訓練が有効なのです。アラブ人どうしなら、母音が多少違ってこれを“訛り”と聞いて、同じ単語だと認識するからです。

また、それぞれの地域の中でも、単語の中で母音が消えたり、入ったりすることが頻繁に起きます。これをその都度、書いたり書かなかったりするのは煩雑です。たとえば、エジプトのアラビア語では、同じ「本」でも、前に da「それ」がつくと母音の e が消えるし、「着ている」は、後ろに o「それを」(文字では **لها**)

で書く) をつけると、母音の ā は短く a になり、e が消えます。

エジプトアラビア語の例

ketāb	كتاب (KTAB)	lābes	لابس (LABS)
ケターブ	「本」	ラーベス	「着ている」
da ktāb	دا كتاب (DA KTAB)	labso	لابسه (LABSH)
ダクターブ	「それは本だ」	ラブソ	「それを着ている」

こういうわけで、母音を書いたり書かなかったりすると、同じ単語なのかどうかも分かりにくくなってしまいます。アラビア語はこういう言語なのです。

3. 語順が日本人にとっても簡単というふしぎ

アラビア語は難しい言語と言われますが、言葉じたいはそれほど難しくはありません。発音は、難しい部分はもちろんありますが、とくにエジプトのアラビア語などは、カタカナ発音でもかなり通じます。中国語や英語はカタカナではなかなか通じませんよね。単語も、名詞や形容詞は男性、女性がありますが、格変化はありません。主語によって動詞が変化するのはヨーロッパの諸言語と同じです。

さて、文法の中で重要な語順ですが、アラビア語の語順は、日本人にはとても簡単です。なぜかという、日本語と「全部逆」と覚えるだけでいいからです。英語の語順は、日本語と逆だったり、同じだったりして、とても難しいです。アラビア語は、そういうことはありません。たとえば日本語で「昨日、韓国レストランで牛肉を食べた」という文をアラビア語ではその逆「食べた、肉、牛、で、レストラン、韓国、昨日」の順で言うのです。

つまり、まず日本語で書いて、それぞれの単語の下にアラビア語を書けば、あとはそのまま右から読んでいけば「アカルト ラハマ バアリ フィ マトアム コウリィ エンバーレへ」と正しいアラビア語の文になっているわけです。

日本語	昨日	韓国	レストラン	で	牛	肉を	食べた。
	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
アラビア語	امبارح	كوري	مطعم	في	بقري	لحمة	اكلت
	ヘレーバンエー	イリウコー	ムアトマー	イフー	リアバー	マハラ	トルカア

動詞は、主語がだれなのか、過去か現在かで変化させる必要があります、名詞や形容詞は複数形などがありますが、それを除くと、単語さえ覚えれば、逆に並べていくだけで文ができるので、アラビア語の語順は日本人には難しくないのです。

4. 簡単なのに難しいふしぎ

このようにアラビア語は、語順もさほど難しくないのに、世界一難しいと言われることがあります。確かに外務省の研修言語の中でも、難しいからという理由で、学習開始1年後の目標値がほかの言語より低く設定されています。

では何が難しいのでしょうか。馴染みがない文化というのもその重要な理由と考えられます。ヨーロッパなどは、旅行やテレビ、学校の歴史や地理の勉強の中で、それなりに見聞きして馴染んでいます。アラブ圏は馴染みが薄いです。けれども、アラビア語が「難しい」のには、もっと大きな理由があります。それが、アラビア語の「二層状態」です。

(1) 二層なアラビア語

言語の「二層状態」とは、社会言語学やアラビア語学の世界では「ダイグロシア」(diglossia)として知られています(詳しくは『アラビア語の世界』p.366)。本や新聞を「読む」、書類やレポートを「書く」、また「公式」のときに使う言葉が、家庭や学校やふだんの社会生活で「話す」ときの言葉とかなり違う状態のことです。明治の頃は日本語も、書物や新聞では、ふだん話すときに使っていた言葉とかなり異なり、「学びの心を起こせり」「話すが如く書くべからず」などのような「文語体」を使っていました。アラビア語は、現在でもこのような二層状態なのです。

この、本や公の場での「文語体」をアラビア語では「フスハー」(فصحى FSHA 最も明晰な)と呼び、高貴な言葉とみなされますが、使いこなすにはたくさんの知識と訓練が必要で、これに熟達していると尊敬されます。いっぽう、ふだん話している言葉、「会話体」(口語体)は、アラビア語では「アンミーヤ」(عامية 民衆の)と呼び、ネイティブ話者であればだれでも話せるので、低俗な言葉とみなされます。アラビア語の文語体と会話体(エジプト)は次のように違ってきます。

アラビア語の会話体と文語体の比較

エジプト会話体	^{欲しい} アーイズ	^{私が飲む} アシュラブ	^{コーヒー} アホワ	عايز اشرب قهوة	
	(コーヒーが飲みたいです)			ʕa:iz aʃrab ʔahwa	
文語体	^{私が欲しい} ウリード	^{することを} アン	^{私が飲む} アシュラブ	^{コーヒー} カホワ	اريد ان اشرب قهوة
	(珈琲を飲まんと欲す)			ʔuri:d ʔan ʔaʃrab qahwa	

日本では、アラビア語講座や大学の授業などで、たいてい文語体だけを教えているのですが、つまり「我、珈琲を飲まんと欲す」や「汝、名は何ぞや」のような言い方を覚えているわけで、こんな言葉で旅行先や日本に来た留学生たちと話す、とてもおかしい感じになるのです。また、これでは現地の人が話しているのを聞き取ることはもちろんできません。一生懸命勉強しているのに一向に通じるようにならないと感じるのは、勉強しているアラビア語が、実際の現地会話では使われていないものだからなのです。

(2) 二層なアラビア語の学び方

このようにアラビア語は二層になっており、文語体だけでは会話が充分にはできないし、会話体だけでは読み書きが充分にはできないので、アラビア語をマスターするには、この両方を学ばなければなりません。

ところが、会話体の教育は軽視される傾向があります。それには、読み書きができるようにという理由と、会話体は国ごとに方言が異なるので共通な言葉を身につけるという実用的な理由もありますが、さらに重要な理由があります。それが、知識人たる者は“きちんとした”アラビア語をまず身につけるべきだという考え方と、“きちんとした”アラビア語を身につければ、会話体“なんかは”それを“崩せば”できるものだ、といった意識です。こうして、会話体は学ぶものではなく“慣れる”もののように言われたりするのです。けれども、日本語の文語体の「せざるべからず」をいくら“崩し”ても、「しなければなりません」のような話し言葉にはなりません。ラテン語には文法があるが俗語には文法がないというような、前近代的な意識がいまだに根強く人々の意識を支配しているのです。アラブの子どもは小学校に行くようになって読み書きのために文語体を習い、話すように書いたらバツをされるので、アラブ人には文語体が“正しい”という意識が根づき、教師は文語体を教えるべきと考えてしまうのです。会話体も、文語体と同じように文法体系を備えた、一個の言語体系だということを意識しておく必要があります。

私は学生の頃、アラビア語専攻でしたが、アラビア語がぜんぜんできるようになりませんでした。文語体の単語を、どうも実感としてつかめなかったのです。教科書のこの単語は、辞書にも載っているけれども、現地の人々が実際に同じ意味で同じように使っているのだろうかという疑念が邪魔して勉強が進みませんでした。短期間でしたがシリアに行って、現地で会話体を勉強してはじめて、ア

ラビア語というものがつかめたと感じました。語学というのはやはり、実際の会話がないと身につかないものなのです。それで、会話体による会話をとおしてアラビア語を教えるようにしました。NHK ラジオ「アラビア語講座」では、ディレクターの方が現地のアラビア語事情をご存知で、会話体を教える人ということで、私を選んでくださいました。

ところで、話し言葉というのは、自分の中から湧き出してくる感情を半ば無意識に表明しているのです、その分、単語や表現が豊富にあります。文章を書くというのは、話すときよりも一歩下がって冷静に書くので、感情やニュアンスの表現は比較的少ないですが、話し言葉の土台の上に成り立っているのです、文章を理解するにはやはり話し言葉の裏にある精神性や文化も理解しておく必要があるのです。ですから、二層を両方とも、総合的に学ばなければならないということが、アラビア語の難しき点なり！

では、会話体と文語体のどちらを先に勉強すればいいのでしょうか。私は、語学というものは実際の会話練習が絶対に必要だと考えています。会話の練習なくして、語学は身につけません。つまり、入門の最初の段階から会話体による実践の会話がぜひとも必要なのです。会話体の上に文語体を積み上げていくことが、遠回りに見えて、実は近道だと考えています。

(3) 各国のお国言葉

「子音だけ表記の効能」のところでも触れましたが、アラビア語に二層あるのに加え、会話体は国によっても方言の違いがあります。方言は、アラビア半島、エジプト・スーダン、北アフリカ、シリア地方、イラクに大きく分けられます。アラビア語の会話体を学ぼうと思ったら、このうちの1つを選びます。

「お茶が飲みたい」を例に、その違いを見てみましょう。

「欲しい」の単語は、アーイズ (エジプト)、アリード (アラビア半島)、ベッディ (シリア)、プギト (モロッコ)、イツリド (マルタ) のように、国ごとにすべて異なっています。次に「飲む」は、語幹「シュラブ」の頭に「私は」の意味でエジプトやアラビア半島では「ア」をつけますが、シリアではこの「ア」が消えて、モロッコやマルタ語では「ヌ」「ニ」がつきます。このように文法的なことも少しずつ、国によって異なります。発音の点では、ق (Q) が各地で違います。エジプトやシリアでは「ア」、アラビア半島では「ガ」、モロッコでは「カ」です。またシリアでは語末の母音「a」が「エ」で発音されます。

お国言葉 「(私は) コーヒーが飲みたい」

エジプト	^{欲しい} アーズ	^{私が飲む} アシュラブ	^{コーヒー} アホワ	عايز اشرب قهوة
アラビア半島	^{私は欲しい} アリード	^{私が飲む} アシュラブ	^{コーヒー} ゲハワ	اريد اشرب قهوة
シリア	^{私は欲しい} ベッディ	^{私が飲む} シュラブ	^{コーヒー} アホウエ	بدي شرب قهوة
モロッコ	^{私は欲しい} ブギト	^{私が飲む} ヌシュラブ	^{コーヒー} コホワ	بغيت نشرب قهوة
マルタ語	^{私は欲しい} イツリド	^{私が飲む} ニシュロブ	^{コーヒー} カフェ	Irrid nixrob kafè

ところで、イタリア語の先生に、スペイン語がどれくらい分かるか尋ねたら、半分くらい分かるということでした。イタリア人がスペイン旅行でイタリア語で話したら、なんとか通じたという話も聞いたことがあります。こうしてみると、アラビア語の「方言」は、エジプト「語」、シリア「語」としてもいいのかも知れません。

では本日はこれで終わります。(完)

アラビア文字を解読しましょう

文字一覧を見ながら次のアラビア文字にローマ字を振って読んでみましょう。次に、その意味を下の単語から探しましょう。

الجبر	الطاير	الكحول	اسلام	الله	بن لادن
صحراء	عربي	قرآن	محمد	مكة	

アッラー アラビア語 アルコール アルジェブラ アルタイル イスラム
コーラン サハラ ビン・ラデイン メッカ モハンマド

コーヒー	アラジン	ラクダ	オアシス
قهوة	علاء الدين	جمل	واحة

アラビア文字の一覧

★は次へつながらないことを示します。

終りの形	基本形			終りの形	基本形		
ا	ا★	A 語頭では a.i.u アリフ	1.	ط	ط	T ター	16.
ب	ب	B ベ (バー)	2.	ظ	ظ ³ ظ ² ظ ¹	Z [d z ð] ザー	17.
ت	ت	T テ (ター)	3.	ع	ع	E アイン	18.
ث	ث	θ [t, s, θ] セ (サー)	4.	غ	غ	G ガイン	19.
ج	ج	J [dʒ, g] ギーム (ジーム)	5.	ف	ف	F ファー	20.
ح	ح	H ハー	6.	ق	ق	Q [q ?] カーフ	21.
خ	خ	K カー	7.	ك	ك ¹ 2	K カーフ	22.
د	د★	D ダール	8.	ل	ل	L ラーム	23.
ذ	ذ★	D [d z ð] ザール	9.	م	م ² 1 3	M ミーム	24.
ر	ر★	R レ (ラー)	10.	ن	ن	N ヌーン	25.
ز	ز★	Z ザイー	11.	ه	ه	H ハ (ハー)	26.
س	س	S スイーン	12.	و	و★	W ワーウ	27.
ش	ش	Sh ション	13.	ي	ي	Y イエ (ヤー)	28.
ص	ص	S サード	14.	ة	ة	語尾の A 名詞の前で ē ターマルブータ	29.
ض	ض	D ダード	15.	ى	ى	語尾の A 語尾の前で y アリフマクスーラ	30.
				لا	لا ¹ ★	A←L ラーム・アリフ	31.

コラム †

アラブで「韓流」



ショップの共同経営者たちと



カイロの韓流ショップ

… * * * ————— * * * …

2015年2月、2週間のアラビア語研修を個人的に申し込み、エジプトを訪れました。語学学校で韓国人の受講生と話をしていると、ちょうど宿舎の近所に韓流ショップがあるということで、さっそく行ってみることに。私は韓流ファンのひとりで、アラブにも韓流ファンがいたら会いたいと思っていたところでした。

カイロの中でも各国大使館が集中し、多くの外国人が住む裕福な町であるドッキ地区にその店がありました。ビルの薄暗い廊下の一角に K-POP アイドルの名前が並べて貼ってある入口がありました。店内は、壁にまばらにグッズが飾ってある程度、がらんとした部屋で数人の若い女性がおしゃべりをしていました。私はまず韓国人ではなくて日本人であること、韓流ファンだと自己紹介して、話の輪に入れてもらいました。聞けば、1、2年前からケーブルテレビで韓国のドラマなどが流れるようになり、急激にハマって、数人の仲間で最近店を出したばかりとのこと。実際にはフェイスブック（We are different Egypt）でネット販売が中心だそうです。とはいえ、その後何度か行きましたが、ちらほらとお客さんも来ていました。メンバーの1人、トタさん（ニックネーム）は、好きな歌手は JYJ のジェジュン、最近では EXO（エクソ）も好きで、俳優はチャン・グンソクが好きだそうです。帰国前日にあいさつに行くと、トタさんの誕生日パーティーをしていて、私もケーキをご馳走になりました。十数人が集まっていて、K-POP フ

アンの男性たちもいました。

アラブには韓国の歌手の正式なファンクラブはありませんが、いろいろな歌手のファンページがフェイスブックで展開されていて、私もさっそく好きな歌手 T-ARA のグループに参加しました。彼らは韓国に行くことはままならないので、当然、ツイッターや情報サイトなどの転載が多いのですが、情報がアラビア語に訳されてアップされる早さにはびっくりします。

ドッキ地区には韓国大使館もあり、その隣に韓国文化院があると聞き見に行きました。韓国政府はアジア通貨危機以来、文化コンテンツ輸出に力を入れて、国策として予算を投入しています。文化院はオープン直後で、一部工事中でしたが、図書室や教室など立派な施設をみると、力の入れ具合が分かります。K-POP やドラマもその一環で、おかげでエジプトでも韓国が知られるようになったわけです。動画投稿サイトで検索してみると、ミュージックビデオやテレビ番組にアラビア語訳の字幕がついた動画がたくさん見つかります。韓国語を学ぶアラブ人がいて、それを見て楽しむアラブ人がかなりいるということです。文化院の韓国語教室「世宗学堂」にも生徒がたくさん集まっているとのことでした。カイロ大学には韓国語学科はないのですが、日本語学科の女子学生の1人は歌手キュヒョンが好きで、世宗学堂に通い始め、メッセージャーで私と韓国語で簡単なやりとりができるようになりました。

… * * * ← ————— → * * * …



ユーチューブで、Laboumの曲 Shooting Love のミュージックビデオにつけられた歌詞のアラビア語訳字幕



フェイスブック上で、T-ARA 新曲のニュースへのコメント

アラビアを知るための3冊

・*・...‡...・*・*・*・...‡...・*・...‡...・*・



矢島文夫著(1992)『アラビアンナイト99の謎』, PHP 文庫

「謎」というより、アラビアに関する99のエッセイという感じです。また前半はアラビアンナイト(千一夜物語)を中心にしていますが、後半は広くアラビア世界の歴史、社会、風俗に話が広がっています。各話題は短いですが、かなり深く、いろいろな分野にまで広く知ることができます。

... * * ————— * * ...

池内恵著(2002)『現代アラブの社会思想 —終末論とイスラーム主義—』, 講談社現代新書

現地の出来事を解説しながら、アラブ社会全体の思潮、あるいは一般の人々の世界観を解き明かしています。イスラム教だけでなく、また国内、国際政治だけでなく、そこへ人々の思いを絡めた社会思想の全体が見えてきます。



... * * ————— * * ...



ケース・フェルステター著, 長渡陽一訳(2015)『アラビア語の世界 —歴史と現在—』, 三省堂

アラビア語の始まりから古典時代、そして現在のアラビア語を取り巻く社会までを詳しくつづった学問的な手引書です。方言の解説や世界への影響、アラブ文法学の概説の章まで、まさにアラビア語の全体像を描いています。世界のアラビア語研究を挙げつつ書かれているので、アラビア語研究の最先端の情報が詰まっています。

... * * ————— * * ...